

※履修登録期間：第1～3タームは4月、第4～6タームは10月

●第1ターム（4月5日（金）～6月6日（木））※単位の丸数字は、必修科目または選択必修科目

曜日	時間	コード	授業科目	担当教員	教室	単位	学年
月	8:50～ 12:00	AX14101	組織マネジメントと学校経営	大内・北村他	デ 206	②	1～2
火	8:50～ 12:00	AX11101	学習指導要領と教育課程の編成	石塚・松原他	デ 206	②	1～2
		AX11201	特別支援教育の教育課程開発	渡部・名執	3-215	②	1～2
水	8:50～ 12:00	AX15101	教職メンタリングの理論と実践	脇本・柳澤	デ 206	②	1～2
木	8:50～ 12:00						
金	8:50～ 12:00	AX13101	教育相談体制とカウンセリング	佐野・泉	デ 206	②	1～2

●第2ターム（6月7日（金）～8月2日（金））

曜日	時間	コード	授業科目	担当教員	教室	単位	学年
月	8:50～ 12:00	AX16101	教育改革の現状と神奈川の教育事情	石塚・北村	デ 206	②	1～2
火	8:50～ 12:00	AX14102	学級経営・学級指導の実践と課題	大内・佐野他	デ 206	②	1～2
水	8:50～ 12:00	AX12101	授業デザインの理論と実践	吉崎・柳澤他	デ 206	②	1～2
		AX12201	特別支援教育の授業デザイン	渡部・星野	3-215	②	1～2
木	8:50～ 12:00	AX23101	校内研究・研修の方法論	大内・北村	デ 206	2	1～2
		AX24202	特別支援教育の理論と実践	泉・名執	3-215	2	1～2
金	8:50～ 12:00	AX21107	ICTを活用した授業改善	野中・望月	デ 201	2	1～2

●第3ターム（8月3日（土）～9月30日（月））： 集中・通年科目のみ

●通年科目等（第1ターム～第3ターム）

	コード	授業科目	担当教員	教室	単位	学年
通年・集中	AX21108	教育実践研究の方法（不定期）	脇本・野中	デ 201	1	1～2
	AX21109	教育実践論文演習（不定期）	脇本他	デ 206	1	1～2
	AX21105	課題フィールドワーク（不定期）	全教員	デ 206	2	1～2
	AX22101	基盤的な学力育成の理論と実践（第3ターム・集中）	石塚他	デ 206	2	1～2
	AX23106	教職キャリア開発の方法	脇本他	デ 206	2	1～2
	AX24201	特別支援学校経営の理論と実践（第3ターム・集中）	名執	3-215	2	1～2
	AX23104	児童生徒がもつ課題の理解と指導方法（第3ターム・集中）	佐野・大島	デ 206	2	1～2
実習科目	AX31100	授業基礎実地演習（第1ターム）	全教員	-	②	1～2
	AX32100	学級・学年経営基礎実地演習（第2・4・5ターム）	全教員	-	④	1～2
	AX45101	メンタリング実地研究（不定期）	全教員	-	②	1～2
	AX46101	チームメンタリング実地研究（不定期）	全教員	-	②	1～2
	AX33200	特別支援教育授業基礎実地演習（第1ターム）	全教員（特）	-	②	1～2
	AX34200	特別支援学級・学年経営基礎実地演習（第2・4・5ターム）	全教員（特）	-	④	1～2
	AX47201	特別支援教育メンタリング実地研究（不定期）	全教員（特）	-	②	1～2
課題研究	AX48201	特別支援教育チームメンタリング実地研究（不定期）	全教員（特）	-	②	1～2
	AX55101	学校課題解決研究Ⅰ（水曜午後・不定期）	全教員	デ 206	②	1～2
	AX57201	学校課題解決研究Ⅰ（特別支援教育）（水曜午後・不定期）	全教員（特）	デ 206	②	1～2

●第4ターム（10月7日（月）～12月3日（火））

曜日	時間	コード	授業科目	担当教員	教室	単位	学年
月	8:50～	AX22103	教材研究・単元開発	両角・佐野	デ201	2	1～2
	12:00	AX24203	特別支援教育コーディネータの役割と課題	渡部	3-215	2	1～2
火	8:50～	AX15102	教員の社会的役割と職能発達	脇本・北村	デ206	②	1～2
	12:00						
水	8:50～	AX22102	総合的な学習の理念とカリキュラム開発	大内	デ206	2	1～2
	12:00	AX24205	個別の教育支援計画・個別の指導計画	名執・星野	3-215	2	1～2
木	8:50～	AX16201	インクルーシブ教育の理論と課題	泉・名執	デ206	②	1～2
	12:00						
金	8:50～	AX21104	家庭・地域と連携した情報モラル教育	大島・望月	デ206	2	1～2
	12:00						

●第5ターム（12月4日（水）～2月12日（水））

曜日	時間	コード	授業科目	担当教員	教室	単位	学年
月	8:50～						
	12:00						
火	8:50～						
	12:00						
水	8:50～						
	12:00						
木	8:50～	AX16102	教育の情報化と学校改革	野中・大島	デ206	②	1～2
	12:00						
金	8:50～	AX24204	発達障害児の心理と教育	渡部	3-215	2	1～2
	12:00						

●第6ターム（2月14日（金）～3月31日（火））：最終報告（研究成果報告会）

●通年科目等（第4ターム～第6ターム）

	コード	授業科目	担当教員	教室	単位	学年
集中	AX23105	教育の国際比較（第5ターム・集中）	野中・小池	デ206	1	1～2
課題研究	AX56101	学校課題解決研究Ⅱ（水曜午後・不定期）	全教員	デ206	②	1～2
	AX58201	学校課題解決研究Ⅱ（特別支援教育）（水曜午後・不定期）	全教員（特）	デ206	②	1～2

授業科目の概要

●共通科目

授業科目	担当教員	単位数	講義の概要
学習指導要領と教育課程の編成	石塚等、高木まさき、 松原雅俊	2	教育課程の意義や教育課程に関する法令、学習指導要領の趣旨・内容、学習の評価、カリキュラム・マネジメントについて考えながら学修させ、学校において特色ある教育課程の編成に主体的に参画するために必要な能力を身に付ける。
特別支援教育の教育課程開発	渡部匡隆、名執宗彦	2 (特)	通常教育とは大きく異なる特別支援教育の教育課程の理論について、我が国の特別支援教育の歴史的な変遷を踏まえながら検討する。そして、特別支援学校、特別支援学級、及び通級による指導の教育課程の編成について、肢体不自由を中心に障害種別毎に分析を行い、特別支援教育として望ましい教育課程編成のための知識と技量を身に付ける。
授業デザインの理論と実践	吉崎静夫、 柳澤尚利、高木まさき	2	学習指導要領及び学校の教育課程の編成方針に従って、学習内容の系統性等を踏まえ、目標設定、単元開発や授業づくり、教材開発、アクティブ・ラーニングを含む多様な指導方法、評価等の在り方を理解し、その改善に必要な能力を身に付ける。
特別支援教育の授業デザイン	渡部匡隆、星野留美	2 (特)	障害のある幼児児童生徒の自立と社会参加の実現を目指した授業をデザインするため、知的障害を中心に幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、持てる力を最大限に発揮するための授業づくりが可能となる教師の専門的能力を培う。
教育相談体制とカウンセリング	佐野泉、泉真由子	2	教育相談の観点から、配慮や支援を必要とする子どもの「困難」などの背景要因やメカニズム等について講義や演習を通して理論的に学ぶ。子どもの「つまずき」や「困難」などの背景要因やメカニズム等について理解するとともに、分析や評価、検討の方法などについて知識を深める。さらに、演習を通して学校生活全体を通じた指導内容・方法と子どもの適応との関係や支援方法について、体験的検討を行う。
組織マネジメントと学校経営	大内美智子、 北村公一、松原雅俊	2	学校経営の改善に関して、組織マネジメントの観点から基礎理論及び先進的実践事例について学ばせる。また、学校経営を、次の4つの領域、①「組織経営領域」②「自己成長領域」③「対人間関係領域」④「業務遂行領域」に分類し、組織マネジメントの理論をそれぞれの領域に援用しながら、グループ・ディスカッションやスキル・トレーニング等を行う。このことを通して、これからの学校経営の姿及び改善策の探究、協働参画を推進するための職能の開発等を目指す。
学級経営・学級指導の実践と課題	大内美智子、佐野泉、 松原雅俊	2	児童・生徒の充実した学校生活の基盤は学級にある。児童・生徒がそれぞれの良さや個性を表出し協同意識の高い学級づくりを行うための学級経営・学級指導の基礎事項を理解することを図る。また、事例に基づいてグループワークやグループディスカッションによる課題の考察等を通して、優れた学級経営と学級指導の実践力を身に付ける。

教職メンタリングの理論と実践	脇本健弘、柳澤尚利	2	教職に関するメンタリングについて扱う。教師の専門性を学び、それらをふまえて支援ができるようになることを目指す。具体的には、1対1の対面でのメンタリングやチームでの複数のメンタリングなど、多様な形式のメンタリングの理論や方法について学ぶ。
教員の社会的役割と職能発達	脇本健弘、北村公一	2	教師という職業がどのように誕生し、現在何が求められているのか、これまでの学校制度などの歴史や法律など、様々なテーマを扱いながら考察する。また、現在の教師をめぐる様々な事象を扱い、今後教師としてどのように学んでいけばよいのか考える。
教育改革の現状と神奈川の教育事情	石塚等、北村公一	2	国及び神奈川県における教育課題と教育改革の意義と現状について具体的な事例を通して考えながら学修させ、学校現場や教育行政の立場から解決すべき様々な教育課題に適切に対応できる能力を身に付ける。
インクルーシブ教育の理論と課題	泉真由子、名執宗彦	2 (特)	「共生社会の形成」という観点から、障害の有無にかかわらず全ての人間が支え合いながら社会を構成しているという意識を涵養する。事例に基づいて課題を考察しながらインクルーシブ教育の理念と内容を理解し、その実現に必要な能力を身に付ける。
教育の情報化と学校改革	野中陽一、大島聡	2	教育の情報化による学校改革の在り方について、授業における ICT 活用の考え方、情報活用能力を育成するための体系的な情報教育や情報モラル教育のカリキュラムや指導方法、教員の事務負担の軽減と子どもと向き合う時間の確保のための校務の情報化、情報化の推進体制等の観点から検討する。

●選択科目

授業科目	担当教員	単位数	講義の概要
教育実践研究の方法	脇本健弘、野中陽一	1	教育実践に関する研究の方法を学ぶ。具体的には、学校現場の見方を、量的調査、質的調査を中心に実際に体験することで習得する。量的調査については、統計学を学びつつ、質問紙法などを扱う。質的調査ではインタビュー法などを扱う。授業は研究方法を座学で学びつつ、実際に実習を行いながら実施する。
教育実践論文演習	脇本健弘、泉真由子、大島聡、高木まさき、野中陽一、渡部匡隆、	1	教育実践、学校課題に関連する文献調査の方法、論文の講読を行う。教員の専門分野に関する論文や、院生の問題関心に応じた論文を中心に講読し、その内容を理解するだけでなく、研究テーマの設定、先行研究の調査、研究方法等について分析し、自らの実践研究を論文としてまとめる方法について学ぶ。
家庭・地域と連携した情報モラル教育	大島聡、望月隆	2	現行学習指導要領で、情報モラルについての教育の実施が求められ、各学校では実践が始められている。本科目では、まず情報モラル教育の背景を探り、対象とする情報モラルの内容を明らかにしていく。また、授業事例を参考にしながら、有効な方法について考察をする。最後に、自らの観点で実践をデザインし、相互に発表、検討し合う。
課題フィールドワーク	泉真由子、大島聡、野中陽一、渡部匡隆、脇本健弘、石塚等、大内美智子、北村公一、佐野泉、名執宗彦、松原雅俊、高木まさき	2	学校訪問・調査や教職大学院教員のシャドーイング、教育委員会・教育センター等でのインターン等、連携協力校以外の実践現場において、院生が自ら学校課題の解決や授業改善に必要な取り組みを事前調査をもとに企画立案し、報告書にまとめて発表する。
ICT を活用した授業改善	野中陽一、望月隆	2	教科指導における ICT 活用について、実物投影機、指導者用デジタル教科書、インターネット上の教材等の活用に関する演習を行い ICT 活用による授業改善とその効果について、理解する。

基盤的な学力育成の理論と実践	石塚等、両角達男、和田一郎、高木まさき	2	学習指導要領の学力観の変遷、諸外国におけるコンピテンシーによる改革、PISA調査で測ろうとする学力などを概観するとともに、全国学力・学習状況調査の結果等を踏まえた授業改善やアクティブ・ラーニングなどの指導方法の改善を図る能力を身に付ける。
総合的な学習の理念とカリキュラム開発	大内美智子	2	総合的な学習の時間が創設された背景や目標を学習指導要領改訂の趣旨や要点に基づいて理解し、さまざまな事例を検証しながら学校の特色を生かしたカリキュラムの開発やカリキュラム・マネジメントについて学ぶ。また、実際に単元開発や授業構想ができる能力を身に付ける。
教材研究・単元開発	両角達男、佐野泉	2	授業づくりや授業改善に向けた教材研究、および単元開発の意義とその内容について、理論的な考察とその具体に関する理解を深める。その際に、授業者の視点、学習者の視点を意識した教材研究や単元開発を進める。また、テーマに基づく単元を開発し、開発した単元に関わる議論を通して、改めて「教材研究・単元開発」とは何かに迫る。
校内研究・研修の方法論	大内美智子、北村公一	2	校内研究・研修のテーマ設定、目標の具現化、方法の焦点化、指導法の開発、評価方法等の校内研究・研修推進のための基礎的な理論の習得及び実践力の向上を図る。そのために校内研究・研修の先進校や開発校での具体的な実践事例の分析をもとに、グループワーク、グループディスカッションやプレゼンテーションをベースとした学修を行う。
児童生徒がもつ課題の理解と指導方法	佐野泉、大島聡	2	今日の教育問題について、基礎的データ・諸事例・諸研究を通して検討する。その上で、諸問題を克服する着眼点として、構成的グループエンカウンターをはじめとする諸グループワークを元に、「遊び」と「表現」とを取り上げ、教育人間学的に考察する。また、「遊び」や「表現」を各教科の授業と関連付ける事で、教科名に挙げた児童生徒の問題行動理解へと受講者の意識を深め、その指導方法を具体的に確立させていくことを目指す。そのことから、子どもの表現を一層深く読み解き、活性化させることで、教師の子ども理解を深化させ、子どもの全体的な成長を促していく教育実践について考える。
教育の国際比較	野中陽一、小池研二	1	いくつかの視点で日本と他国の教育を比較することを通して、日本の教育の特徴を理解し、現状と課題について検討する。情報教育等を切り口にして日英の授業実践の比較をしたり、教師教育の動向を探ったりする。また、教員研修留学生等のゲストスピーカーから教育実践、教育改革に関する情報を得て、日本との比較を行う。
教職キャリア開発の方法	脇本健弘	2	教職のこれからのキャリアについて考える。教職に関するレーダーチャートをもとに自己診断を行い、自身の強みと課題を把握する。レーダーチャートの各項目について学びつつ、自身は今後どのように学校の運営に貢献できるのか、また、それに向けて何を学ぶべきなのか、キャリアプランを立てることで、今後の教員としてのあり方を考えられるようにする。
特別支援学校経営の理論と実践	名執宗彦	2 (特)	特別支援学校の管理職に求められる学校組織マネジメント・学校評価の実践的力量を、実践的トレーニング（事例検討や現任校の現状分析等）から育成する。
特別支援教育の理論と実践	泉真由子、名執宗彦	2 (特)	障害児教育から特別支援教育への変遷の概要と特別支援教育の理念を理解する。病虚弱を中心としたさまざまな障害の疑似体験等を通し、障害理解を促進する。また、地域の関係諸機関との連携、障害のある子どもだけではなくその家族への支援の重要性を理解し、各対象への具体的な支援方法を考案することができる能力を身に付ける。
特別支援教育コーディネータの役割と課題	渡部匡隆	2 (特)	特別支援教育推進のキーパーソンとなる特別支援教育コーディネータに期待される役割、基本的業務を理解する。複数のケース検討を通し、それぞれの業務について起こりうる問題や課題を整理し、具体的な解決策を考案することができる能力を身に付ける。

発達障害児の心理と教育	渡部匡隆	2 (特)	自閉症スペクトラム、注意欠陥多動性障害、学習障害、軽度知的障害に焦点をあて、障害の概念と定義(診断基準)、行動特性、教育上の基本的な配慮事項と指導法について教育・研究する。
個別の教育支援計画・個別の指導計画	名執宗彦、星野留美	2 (特)	障害のある児童生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握し、就学前から学校卒業後までを通じて一貫して適切な教育的支援を行うことを目的として作成する「個別の教育支援計画」と、教育課程を具体化し個々の子どもの教育的ニーズに対応したきめ細やかな指導を行うための計画である「個別の指導計画」の理念を正しく理解した上で、これらの書類の作成手順を学び、適切な書類の作成方法を習得する。また作成後の、管理や活用の方法も併せて学ぶ。

●学校実習科目

授業科目	担当教員	単位数	講義の概要
授業基礎実地演習	大島聡、高木まさき、野中陽一、脇本健弘、石塚等、大内美智子、北村公一、佐野泉、松原雅俊	2	定期的な授業観察及び参与を通して、授業改善に関わる課題を明確化し、観察及び学習成果を元に自ら授業実践等を行い、単元を通じた授業実践ができるようになることを目指す。また、授業においては、児童生徒の姿に応じて柔軟に実践ができ、授業後には、毎時間の児童生徒の学びを省察し、理論と実践を結び付けながら授業の改善ができるようになることを目指し、学校課題解決研究Ⅰでリフレクションを行う。
学級・学年経営基礎実地演習	大島聡、野中陽一、脇本健弘、石塚等、大内美智子、北村公一、佐野泉、松原雅俊	4	授業のみならず、学級・学年経営や学校経営に携わることで、学級・学年経営や学校経営、教科経営について学ぶ。担任として自律して授業や学級経営を行うことができ、学年経営や校務分掌など学校経営に関しても、学校における自身の在り方や役割(学び続ける教員、学校作りの有力なメンバー)なども考えることができるよう、1年を通して、自らの実習を記録し、理論と結びつけながら、教育課題(研究課題)解決に向けた教育実践等の在り方を分析する。定期的に、授業や学級経営、児童・生徒指導、学校行事等の映像を持ち寄り、教員と院生でカンファレンスを行い、学校課題解決研究Ⅰ・Ⅱでリフレクションを行う。
メンタリング実地研究	大島聡、高木まさき、野中陽一、脇本健弘、石塚等、大内美智子、北村公一、佐野泉、松原雅俊	2	実習校の若手教員を対象に1対1のメンタリングを行う。 現職教員学生は、これまで学修したメンタリング理論を用いて、若手教員へのインタビューを行い、若手教員がどのような課題や悩みを抱えているのか分析を行い、それらに基づいて個別メンタリングを実施する。また、メンタリングによる他者支援を通して教員の成長プロセス(経験学習)を学び、自身の成長にも活かすことができるようになることを目指す。 学部新卒学生は、メンタリング行為の観察・分析を通して、経験学習の各プロセスでどうすべきなのか理解し、専門家として自律的に学んでいく素地を身に付ける。自身の課題とその解決策を把握するなど、授業や学級経営においてどのように現場をみればよいのかわかるようになることで、若手のリーダーとして後輩教員にメンタリングを行えるようになることを目指す。また、実習の後半では状況に応じて前半での分析成果をふまえてメンターとして教職大学院の学部新卒学生1年生を対象に、もしくは、若手教員の授業映像等を用いて模擬メンタリングを行う。学校課題解決研究Ⅰ・Ⅱでリフレクションを行う。
チームメンタリング実地研究	大島聡、高木まさき、野中陽一、脇本健弘、石塚等、大内美智子、北村公一、佐野泉、松原雅俊	2	現職教員学生は、学校の課題解決をチームで効果的に行えるようになり、それによって、校内の同僚性の基盤を作ることができ、学校が抱える問題を解決することができるようになることを目指す。 学部新卒学生は、チームの活動を通して、若手教員としてどのように学校が抱える問題の解決に参画できるか考えられるようになり、また、若手教員として校内の教員と関係を築けるようになることを目指す。現職教員学生による学校組織・学校の課題(の現状)分析、チームメンタリングの設計・実施・統括的評価を行う。学校課題解決研究Ⅰ・Ⅱでリフレクションを行う。

特別支援教育 授業基礎実地 演習	泉真由子、渡部匡隆、 名執宗彦	2 (特)	定期的な授業観察及び参与を通して、授業改善に関わる課題を明確化し、観察及び学習成果を元に自ら授業実践等を行い、個々の児童生徒の教育的ニーズに応じた（それぞれの障害に配慮した）きめ細かい指導実践ができるようになることを目指す。また、授業においては、児童生徒の姿に応じて柔軟に実践ができ、授業後には、毎時間の児童生徒の学びを省察し、理論と実践を結び付けながら授業の改善ができるようになることを目指し、学校課題解決研究Ⅰでリフレクションを行う。
特別支援学 級・学年経営 基礎実地演習	泉真由子、渡部匡隆、 名執宗彦	2 (特)	授業のみならず、特別支援学級あるいは特別支援学校の学級・学年経営や学校経営に携わることで、学級・学年経営や学校経営、教科経営について学ぶ。担任として自律して授業や学級経営を行うことができ、学年経営や校務分掌など学校経営に関しても、学校における自身の在り方や役割(学び続ける教員、学校作りの有力なメンバー)なども考えることができるよう、1年を通して、自らの実習を記録し、理論と結びつけながら、教育課題(研究課題)解決に向けた教育実践等の在り方を分析する。定期的に、授業や学級経営、児童・生徒指導、学校行事等の映像を持ち寄り、教員と院生でカンファレンスを行い、学校課題解決研究Ⅰ・Ⅱでリフレクションを行う。
特別支援教育 メンタリング 実地研究	泉真由子、渡部匡隆、 名執宗彦	2 (特)	特別支援学校あるいは普通学校の特別支援学級等の実習校の若手教員を対象に1対1のメンタリングを行う。 現職教員学生は、これまで学修したメンタリング理論を用いて、若手教員へのインタビューを行い、若手教員が特別支援教育に関連してどのような課題や悩みを抱えているのか分析を行い、それらに基づいて個別メンタリングを実施する。また、メンタリングによる他者支援を通して教員の成長プロセス(経験学習)を学び、自身の成長にも活かすことができるようになることを目指す。 学部新卒学生は、メンタリング行為の観察・分析を通して、経験学習の各プロセスでどうすべきなのか理解し、専門家として自律的に学んでいく素地を身に付ける。自身の課題とその解決策を把握するなど、授業や学級経営においてどのように現場をみればよいのかわかるようになることで、若手のリーダーとして後輩教員にメンタリングを行えるようになることを目指す。また、実習の後半では状況に応じて前半での分析成果をふまえてメンターとして教職大学院の学部新卒学生1年生を対象に、もしくは、若手教員の授業映像等を用いて模擬メンタリングを行う。学校課題解決研究Ⅰ・Ⅱでリフレクションを行う。
特別支援教育 チームメンタ リング実地研 究	泉真由子、渡部匡隆、 名執宗彦	2 (特)	現職教員学生は、学校の課題解決をチームで効果的に行えるようになり、それによって、校内の同僚性の基盤を作ることができ、学校が抱える問題を解決することができるようになることを目指す。 学部新卒学生は、チームの活動を通して、若手教員としてどのように学校が抱える問題の解決に参画できるか考えられるようになり、また、若手教員として校内の教員と関係を築けるようになることを目指す。現職教員学生による学校組織・学校の課題(の現状)分析、チームメンタリングの設計・実施・統括的評価を行う。学校課題解決研究Ⅰ・Ⅱでリフレクションを行う。

●課題研究

授業科目	担当教員	単位数	講義の概要
学校課題解決 研究Ⅰ	大島聡、高木まさき、 野中陽一、脇本健弘、 石塚等、大内美智子、 北村公一、佐野泉、 松原雅俊、小宮龍一	2	全教員・全学生が一堂に会し、連携協力校における授業実践、調査研究、メンタリングへの参画等、学校課題解決に関わる取り組みについて、リフレクションを行う。個別課題の追究と集団による検討、指導教員による指導を組み合わせ、学校課題研究報告書の構想と作成を行う。ターム制を活かし、授業時間外の主体的な学修を促し、理論と実践の往還を図る。

学校課題解決 研究Ⅱ	大島聡、高木まさき、 野中陽一、脇本健弘、 石塚等、大内美智子、 北村公一、佐野泉、 松原雅俊、小宮龍一	2	全教員・全学生が一堂に会し、連携協力校における授業実践、調査研究、メンタリングへの参画等、学校課題解決に関わる取り組みについて、リフレクションを行う。連携協力校の管理職、教員との協議を定期的に行いながら学校課題の解決のためにチームメンタリングを行い、各科目、実習を通して学んだ理論を、実践を通して検証、実証し、学校課題研究報告書をまとめる。
学校課題解決 研究Ⅰ（特別 支援教育）	泉真由子、渡部匡隆、 名執宗彦	2 (特)	全教員・全学生が一堂に会し、連携協力校における特別支援教育に関わる授業実践、調査研究、メンタリングへの参画等、学校課題解決に関わる取り組みについて、リフレクションを行う。個別課題の追究と集団による検討、指導教員による指導を組み合わせ、学校課題研究報告書の構想と作成を行う。
学校課題解決 研究Ⅱ（特別 支援教育）	泉真由子、渡部匡隆、 名執宗彦	2 (特)	全教員・全学生が一堂に会し、連携協力校における特別支援教育に関わる授業実践、調査研究、メンタリングへの参画等、学校課題解決に関わる取り組みについて、リフレクションを行う。連携協力校の管理職、教員との協議を定期的に行いながら学校課題の解決のためにチームメンタリングを行い、各科目、実習を通して学んだ理論を、実践を通して検証、実証し、学校課題研究報告書をまとめる。